

仏教保育

伝えよう 生命の尊さ ほどけの心

10
Oct.



河野太通氏

■シンポジスト
 河野 太通氏（臨済宗妙心寺派前管長）
 秋田 嘉代美氏（東京大学大学院教授・教育学博士）
 小泉 英明氏（脳科学者・理学博士）
 田中 雅道氏（公財全日私幼児教育研究機構理事長）

田中 きょうは、禅道の修行

を経て花園大学学長、全日本仏

教会会長などを歴任された河野先生。保育学・教育心理学を極められた幼児教育学者で知られる秋田先生。そして、脳科学の成績を発表してこられた小泉先生。この素晴らしいお三方をお迎えしてハラハラドキドキ、緊

張っています。この三人の先生

は聞く働きとなり、鼻では香り

を嗅ぎ、口では食し、手で物を

掴み、足は歩くためにある：

はどうあるべきかを語っていました。

（以下略）。これは当時、盲唖

者つまり目が見えない、ものを

言えない、身体障害者への差別

した。その時、ある小学校に目

の見えない児童一人を健常者ばかりの低学年クラスに入れたと

いう話を私は聞きました。その

小学校は教育的な見地から、目

の見えない子どもを入れること

で、他の子どもたちがその子を

認めるような温かい心を持つて

くれれば：そう考えての決断

だつたということでした。

はじめは、"自分たちより劣

る子"だという扱い方に担任も

心を痛めました。担任は一計を

案じ、クラス全員に目隠しをし

て2階から一人ずつ階段を降り

るよう言いました。みんな怖

がつて手すりに掴まつたり、四

つん這いになつて降りたりし

ましたが、目の見えないその

子、仮に『シンちゃん』と呼び

ましょか、シンちゃんは堂々

と階段を降りました。それを見

た子どもたちは『シンちゃんは

偉い』と言い、それからシン

ちゃんを見る目が変わったと

いうことです。六つの靈妙な光

度も休止した試しはない（中

第33回全国仏教保育京都大会・基調シンポジウム 「新しい保育・教育のあり方を探る」

テーマ

て、はや2か月が過ぎました。開会式に続く「基調シンポジウム」では3人のシンポジスト、コーディネーターに田中雅道氏を迎えて、仏教精神に基づいた新しい保育・教育の在り方などについて語ってくださいました。河野太通氏は、「一つのこと集中する「一行三昧」に触れながら」「元々子どもは三昧の境地にある。元のところへ返すのが仏教の保育と思う」と語られ、秋田嘉代美氏は「向日葵はお日様に向かつて綺麗に咲きます。しかし、そつなるまでは『あつちを向いたり、こつちへ向いたり』します。子どもも同じです。育て方はいろいろありますが、最後には綺麗に咲かせてあげたい、そんな保育を心掛けて欲しいと思います」と話されました。

小泉英明氏は「温かい心」は知識よりも先に形成される。成長してからでは難しい。幼稚園に『思いやりの心を持つ子』に育てることが重要だ。仏教保育者の役割は大きい」と説かれ、三人三様に仏教保育への期待を寄せられました。（以下、要旨）

河野 太通氏（臨済宗妙心寺派前管長）
 秋田 嘉代美氏（東京大学大学院教授・教育学博士）
 小泉 英明氏（脳科学者・理学博士）
 田中 雅道氏（公財全日私幼児教育研究機構理事長）

河野 太通氏（臨済宗妙心寺派前管長）
 秋田 嘉代美氏（東京大学大学院教授・教育学博士）
 小泉 英明氏（脳科学者・理学博士）
 田中 雅道氏（公財全日私幼児教育研究機構理事長）

河野 太通氏（臨済宗妙心寺派前管長）
 秋田 嘉代美氏（東京大学大学院教授・教育学博士）
 小泉 英明氏（脳科学者・理学博士）
 田中 雅道氏（公財全日私幼児教育研究機構理事長）



のうち、確かに目の光は欠けていたけれど、他の感覚器官は他の子どもより優れていたということです。『目で聞くならば疑わじ』、つまり他の五感が中止しても一つが他の五感すべてを働かせ、自分が相対するものと一体になっているということです。このことは、小さくても立派な心を備えた人間であるといふこと、それを我々は認識しなければいけない。幼児保育者として心すべきだと思います。

田中 子どもに教えられるお話をどうぞいいます。では、小泉先生のお話を伺いましょう。

小泉 私からは、人間の「脳」の働きや進化についてごく一部ではあります。映像をご覧いただきながら話を進めさせていただきます。

この写真をご覧ください。そもそもぞぞ動いています。三葉虫の目なのです。ツブツブが見えています。これは複眼なので複眼は三葉虫で発達したものです。今から4億年も前のことです。ところで、人間は猿から発して何万年もかけて進化してきたと言わせてきました。しかし、果たしてそうでしょうか？

これは最近になって分かつてきました。これが私たちの祖先ら魚」というのが私たちの祖先らしい？ということが遺伝子を解析した結果分つてきたのです。魚と書きましたが、お魚ではあ

りません。「節足動物」の一種なのです。今、皆さんにお示ししている写真は湘南の油壺で获ったものです。およそ5億年くらい前からひつりと生きているのです。もちろん目もないし、脳もなければ心臓もありません。まさに「生きた化石」と言われています。なぜ、この「なめくじ魚」が人間の祖先では？と言われるようになってきたのか。皆さんも良くご存知の遺伝子の解析が精密に行えるようになつたからです。解説の結果、人間が持つ遺伝子と同じ遺伝子が約60%占めていることが判明したのです。もちろんまだ研究の過程にありますから、現時点では60%を占めるということが分かつた、というだけのことではあります。まあ、「一寸の虫にも五分の魂」という言葉からみれば、「六分の魂」となれば、その分だけ近い仲間になる（笑）。

しかし、「なめくじ魚」という名前からして、あまり良い感じはないですよね。もし、それが人間のルーツだとすれば、決して気分は良くないですよね。結構古くから「快の研究」というのがあります。半世紀ほど前にネズミで「快」を感じたことがあります。當時「中核」と呼んでいた部位に電極をさして、ネズミがレバーを押すと電流が流れる仕組みです。ネズミは、美味しいものを

食べた時よりも電流を流れる時の興奮が快感になるようで、死ぬまで押し続けたというデータがあります。人が生きていくために大事なことは「感動」です。心臓が立つ、これらが「感動」です。感動って「生きる証し」です。「感動できる力」を子どもたちに育ませることは大事だと思います。やる気を起こさせるために「脳」をどう働かせるか、意欲を育むために「脳」を鍛える、そんなことも最近分かつてきました。これからも「解説」に向けて研究を続けていきたいと思います。

田中 「脳」の不思議、人間の進化の謎、驚きを抱きながら拝聴しました。ありがとうございます。では秋田先生、世界の情報も含めながら、幼児期における教育のポイントなど、お聞かせください。

秋田 先ほど、河野先生からの進化の謎、驚きを抱きながら拝聴しました。ありがとうございます。では秋田先生、世界の情報も含めながら、幼児期における教育のポイントなど、お聞かせください。

しかし、「なめくじ魚」という名前からして、あまり良い感じはないですよね。もし、それが人間のルーツだとすれば、決して気分は良くないですよね。結構古くから「快の研究」というのがあります。半世紀ほど前にネズミで「快」を感じたことがあります。當時「中核」と呼んでいた部位に電極をさして、ネズミがレバーを押すと電流が流れる仕組みです。ネズミは、美味しいものを

食べた時よりも電流を流れる時の花を咲かせる「向日葵」についてお話ししたいと思いました。向日葵は大きく花を咲かせるまでは、あつちこつちといろんな方向を向きながら育つています。子どももそうだと思います。一人ひとりが多様なことに関心を向け、時には違う方向を向いていようと、心をこめて育てていくことで、明るい花を咲かせていくのだろう、そう信じています。

「心ある保育環境のデザイン」ということが言われています。それって何でしょう？ 今、保育の質・教育の質が問われています。ヨーロッパ乳幼児教育学会の前会長ノフェール・ラバードさんが書かれた本の中に、「大人の側から質についての議論はいろいろできるが、子どもからみて大事な「質」とは何か。それは二つある。一つは「安心感」と居場所感」。もう一つは「夢中になれる」との幸福感。保育の質の充実とは、文化的価値のある対象への夢中であり、没頭できることである。一人で向き合う夢中・没頭もあれば、仲間と共にする夢中・没頭もある」と。OECDでも、子どもが身に付ける一番重要なことは「人と会話する力、他者を受け入れる包容力」であるとしています。つまり、知的能力は大事だが、人とうまく付き合つていける社会情緒的な力を身に付ける大切

さをあげています。日本でも乳幼児保育・教育について知的能力を育てることはもちろん大事ですが、コミュニケーションの力を身に付けることへの大切さが議論されています。

アメリカで「マシユマロテスト」という有名なテストがあります。白くて柔らかく丸いお菓子です。それを子どもの前に置いて、「ちょっと出かけるけど、先生が帰るまで食べてはダメよ」と釘をさして部屋を出ます。先生が帰るまで我慢する子、待てなくて食べてしまう子もいます。面白いのは、その子たちを17歳になるまで追跡調査をしていることです。学力テストの結果、食べないで耐えた子どもたちの点数が高かつたという研究データがあります。自分をコントロールできる力が子どもの時に育つているという証左だということです。「耐える」ことの大切さを育てるることも重要なと感じています。

◆ ◆ ◆

シンポジウムは3時間余にわたりて続けられ、田中先生の絶妙なコーディネートによって有意義な情報が報告されました。自分をコントロールするためには、雑念なく一つのことに集中するための「一行三昧」という禅の話。脳科学から見る「言語の発達」の話、などなど。紙面の都合で僅かしか報告できないことをお詫びします。



各宗派

夏期保育大会

(研修会・講習会) 報告

臨済宗妙心寺派社会事業協会

社会事業従事者研修大会

川島由里子

7月29日から三日間、暑い夏のさなかだった。

全国から50数名が結集、朝は5時に起きて坐禅と作務。そのあと朝食も、姿勢を整え、音を出さずに静かに頂く。そして命を頂き有り難うと素直に合掌

するという禅の修行の作法に則つて過ごした三日間であった。

講師の先生方のお話も忘れない内容であったが、若い人たちにとっては、この朝の一連の行事が何よりも心に残ったのではないか。

初日は、開会式の中で永年勤続者の表彰があり、39年勤務の幼稚園の先生に温かい拍手が贈られた。

次いで、妙心寺教学部長山本文匡師の法話「わたしのおかげさまー今、ここ、わたしの命ー」に心を洗われ、その夜は懇親会で参加者同士心を通わせた。

翌二日目は、比叡山延暦寺に会場を移し、大僧正・今出川行雲師のお話を伺った。難しい内容であったが、「あなた自身が仮になれる素質をもつているのです」という語りかけが、師の切なる思いであつたのだ

と思う。
続いての講演は、「早寝早起き朝ご飯」で著名な早稲田大学の前橋明教授。具体的な事例

続いての講演は、「早寝早起き朝ご飯」で著名な早稲田大学の前橋明教授。具体的な事例

をあげながらのお話は、子どもたちの生活リズムを本気で再確立させることができて大事なことか、一人ひとりの保育者に響いたことと思う。

最終日の講演は、千葉大学非常勤講師で臨床心理士の大竹直子氏の「保育カウンセリング—子どもと保護者に寄り添つて

響いたこと」と思う。
今年だけでなく、来年もお聞きしたいという声が多くあった。今年も、深い学びを得られた研修会であった。

真宗大谷派

第58回 仏教保育大学講座

五島満



本講座は真宗教団連合の真宗大谷派、浄土真宗本願寺派、真宗仏光寺派、真宗興正寺派が共同で事務局を構成し、本年度は真宗大谷派が幹事宗派となつて運営が行われている。

講師に同志大学特任教授、真宗大谷派泉称寺住職である尾畠文正氏を講師に迎え、「いのちのみな生きらるべし」のテーマのもと、講義、班別討議を中心

たといいう「いのちの願い」に立っていくことが仏教保育であるということ、子どもを指導するだけの関係性を超えることの大切さについて、本講座期間を通じて伝えて下さった。

浄土真宗本願寺派

第52回まことの保育講座

高輪真澄

このたび8月1日～4日の間

で第58回仏教保育大学講座が、京都市「洛兆」を会場に開催され、浄土真宗各派で組織する真宗教団連合所属の関係幼稚園、保育園の教諭、保育士118名が参加した。

浄土真宗本願寺派では8月18日より20日まで、京都西本願寺、開催しました。参加者は北海道から鹿児島まで77名。スタッフ

4日間の日程で行われ、全休討議で閉会した。

尾畠氏は「いのち」ということを中心に日々の生活を振り返るということが、子どもたちと「ひとつ命」を生きる親鸞聖人の「御同朋御御同行」の共なる関係を築いていくこととなると語られた。

また、あらゆる人と共に生きたいといいう「いのちの願い」に立っていくことが仏教保育であるということ、子どもを指導するだけの関係性を超えることの大切さについて、本講座期間を通じて伝えて下さった。



は宮川保育連盟理事長を含め13名及び事務局4名でした。この講座は3年以上の経験のある保育者を対象に、現在それぞれ参

加者が持つている保育や人間関係、いのちなどについての悩みや疑問について、仲間と話し合いかながら解決していくという講座で、毎年開催されています。

阿弥陀堂での開会式後、会場を本願寺聞法会館に移し、富田富士也氏の基調講演。その後、10から11名の班に分かれ、班別討議を行いました。それぞれの討議では今悩んでいることとして、「いのち」について、保護者や職場の「人間関係」について、気になる子について、そして、

二日目には、朝のお参りの後、本願寺書院や飛雲閣の拝観、班別討議、歌の練習など気分転換を図りながら班別討議をびつしり行いました。その頃には班内も打ち解け、活発な討議が繰り広げられました。

三日目はまとめと全体討議です。各班の討議を発表できるよ

て食育などについて、班員からや指導の先生より意見やアドバイスをもらい解決していくました。

この講座は毎年行われています。私がどつては、いつも新鮮な驚きや、発見があります。真剣な悩みをそのまま受け取り、みんなで話し合う、そこに共通理解が生まれ、解決への道筋が見えてくるのです。

大変暑い京都で本山の中で、

みんなで汗をかきながら話しあうそんな研修会でした。

真言宗豊山派保育連合会 第59回教員研修大会

高山 潤照

去る8月22日
(金)、うだるような暑さの中、

真言宗豊山派保育連合会第59回

教職員研修大会が86名の教職員を集めて開催されました。本研修会は大本山護国寺での研修と、全国各地で行う地方研修が一年おきに催されています。

（金）、うだるような暑さの中、真言宗豊山派保育連合会第59回教職員研修大会が86名の教職員を集めて開催されました。本研修会は大本山護

国寺での研修と、全国各地で

行う地方研修が

一年おきに催さ

れております。

高山 潤照

午前10時より行われました開

会式においては、総本山長谷寺

化主・真言宗豊山派管長の加藤

精一猊下にご来臨賜り、御垂辞

を頂戴いたしました。國の宝で

ある子どもを育てる仕事をする

のは非常に尊い事であり、誇り

を持って取り組んでほしいとの

お話を頂き、先生方も気持ちを

新たにしたようでした。

猊下と共に記念撮影をさせて

頂き、第一講の腰塚勇人先生

の「命の授業」が始まりまし

た。腰塚先生は大学卒業後に中

学校の体育教師をされておりま

した。ある休みの日、大の得意

に氣づき、懸命にリハビリを

行つたところ、奇跡とも思える

復活を遂げました。下半身と右

半身に麻痺が残つていると話さ

れてはいましたが、当然のよう

に自力で檻上に登られ、ほとん

日本佛教保育協会編集による出席カードです。
佛教行事を楽しい絵柄で構成しています。



はなまつり、成道会、涅槃会などの佛教行事を、かわいいイラストでファンタジックに表現しています。

出席カード(佛教版)2012年度版

税込3,900円(本体価格3,720円)

セットでのご注文がおすすめです!

出席シール(佛教版)2012年度版

税込2,800円(本体価格2,670円)



第63回 天台保育全国大会日光大会報告

小林 昭寛

今年の天台保育全国大会は、8月25日（月）に、日光山輪王寺様のご協力のもと、日光市日光総合会館及び日光千姫物語を会場として開催されました。コンベンションホールにて開催された開会式及び記念式典にて、天台宗参務社会部長様の御挨拶に引き続き、日光山輪王寺教化部長様より歓

どの時間立たれたまま講義をされました。先生のエピソードはどれも生々しく、しかしその先に気づきがあること、失う前に命の大切さに気付いてほしいこと、語るすべてが受講者的心に響きました。

第二講として食事前に「命をいただく」講話を聞き、昼休みの後、第三、第四講へと進みました。講師は浦上哲也先生、智子先生ご夫妻です。横浜市にあり

る布教所「なごみ庵」を守るお二人でしたが、あるとき金子みすゞの詩に魅せられ、役者をやっていた智子先生がそのまま演じる一人芝居を始められたそうです。哲也先生の金子みすゞにまつわる説話から始まり、続いて一人芝居が演じられました。会場は照明を落とし、スポットライトで照らされる舞台はお昼とは全く違った空間のようを感じられ、その世界に引

きぎり込まれるようでした。

充実した研修会はあつという間に閉会式を迎え、参加された先生方の永年勤続表彰、受講証の授与が行われました。

結びにあたり、暑い中お越し下さった講師の先生方、恵まれた空間を提供して下さった真言宗豊山派の宗務所の皆様に感謝申し上げ、ご報告とさせて頂きます。

迎の御挨拶を頂きました。

統いての永年勤続表彰では、

教職員併せて58名の、天台保育推進に永年ご尽力頂いている方々に謝意を表することができます。

一番目の記念講演では、ピアノの二ツ森比呂志先生と、ソプラノの宮本まゆみ先生による、「童謡・唱歌に親しむ」と題した講演がありました。普段慣れ親しんでいる唱歌を題材に、どのように歌えば、より情感豊かに、作曲者の意図を汲むことができるかについて、一つ一つ歌いながら学ぶことができました。「言葉を大事に丁寧に歌うことが大切です。」と先生が述べられたことが、特に印象的でした。

二番目の記念講演では、日光

武之先生による、「日光山の歴史と世界遺産について」と題した講演を拝聴しました。社寺殿堂案内とは、江戸時代に始まった、聖域であった境内へ立ち入りを唯一許された案内人の組織であり、現在まで連綿と続いているとのことです。その歴史を紐解くことで、日光山が奈良平安時代から始まる山岳修験の一大勢力であり、江戸幕府にとつて大変重要な意味を持つ場所であつたことが理解できました。

また、今年も話題になつた世界遺産について、登録されるまでのプロセスや、国内の文化遺産及び自然遺産についても学ぶことができました。

研修期間中、日光山輪王寺様、日光大会スタッフの皆様には大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

平成 27 年度 幼児教育関係概算要求の概要

文部科学省はこのほど、平成 27 年度予算の概算要求の概要を財務省に提出しました。幼児教育関連では就園奨励費は項目だけを盛り込む事項要求となったため、3.1% 減の 504 億 8500 万円の要求となっています（事項要求の内容については今後の予算編成の過程で検討される）。一般補助としては総額 243 億 7 千万円で 26 年度予算額より 0.2% 減となりましたが、園児一人当たりの単価としては 297 円アップの 23,302 円となっています。認定こ

ども園設置促進への支援は、前年度より 10.0%（18 億 3200 万円）減の 164 億 8700 万円を要求しています。幼稚園教育内容・方法の改善充実では、来年度から本格化する幼稚園教育要領の改訂に向けた準備や今後の幼稚園教育の在り方などの検討のため、前年度比 55.6%（1000 万円）増の 2800 万円を要求しています。その他、主な要求内容は下表のとおりです。

(単位：百万円)

区分	26 年度 当初予算額	27 年度 概算要求額	比較増△減	備考
幼児教育課関係予算総額	52,268	50,485	△1,783	
1. 幼児教育に係る保護者負担の軽減（無償化に向けた段階的取組） (幼稚園就園奨励費補助)	33,905	33,905	0	
2. 認定こども園等への財政支援	18,319	16,487	△1,832	
3. 幼稚園教育内容・方法の改善充実 (新規) 4. 幼児教育の質向上推進プラン (前年度限りの経費) 5. 質の高い幼児教育・保育の総合的提供等推進事業	18 — 26	28 65 0	10 65 △26	幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、すべての子供に質の高い幼児教育を保障するため、幼児教育に係る保護者負担を軽減し、無償化に段階的に取り組む。 「幼児教育無償化に関する関係閣僚・与党実務者連絡会議」（平成26年7月23日開催）で取りまとめられた方針を踏まえ、「環境整備」と「財源確保」を図りつつ、5歳児から段階的に無償化に向けた取組を進めることとし、その対象範囲や内容等については予算編成過程において検討することとされているため、事項要求とする。
【参考】 1. 私立幼稚園施設整備費補助 2. 私立高等学校等経常費助成費補助（幼稚園分） (1) 一般補助 (2) 特別補助 3. 緊急スクールカウンセラー等派遣事業	1,528 33,779 24,417 9,362 3,709 の内数	1,509 34,638 24,370 10,268 3,709 の内数	△19 859 △47 906 —	※公立幼稚園施設整備費については、学校施設環境改善交付金293,681百万円の内数 ①子育て支援推進経費 5,001百万円→5,310百万円 ·預かり保育推進事業 3,851百万円→4,160百万円 ·幼稚園の子育て支援活動の推進 1,150百万円→1,150百万円 ②幼稚園特別支援教育経費 4,361百万円→4,958百万円

平成 27 年度 保育対策関係概算要求の概要

厚生労働省はこのほど、平成 27 年度予算の保育対策関係概算要求の概要を財務省へ提出しました。省全体としては前年度より 3.0%（9258 億円）増の 31 兆 6688 億円を要求しています。保育対策関係予算概算要求は消費税率 10%への引き上げが不確定なため、増税分を含め 26 年度予算額どおりとし、0.8%（48 億円）減の 6200 億円の要求となっ

ています。待機児童解消加速化プランについては強力に進めたいため、「子育て支援対策臨時特例交付金」で 8 万人分の受け入れ枠拡充を実施並びに保育士確保に力を入れる意向を示しています。また、内閣府においても消費税の引き上げによる「保育緊急確保事業」として 1043 億円を概算要求として提出しています。主な内容は以下のとおりです。

(平成 26 年度予算) (平成 27 年度予算概算要求)

6248 億円 → 6200 億円

「待機児童解消加速化プラン」の取組を強力に進めため、保育所の受入児童数の拡大を図るとともに、保護者の働き方や地域の実情に応じた多様な保育を提供するため、延長保育、休日・夜間保育、病児・病後児保育などの充実を図る。

また、「待機児童解消加速化プラン」の確実な実施のため、「保育士・保育所支援センター」の機能を強化し、離職した保育士に対する定期的な再就職支援等による保育士確保対策の充実を図る。

(注 1) 税制抜本改革法に基づく消費税率の引上げについては、同法附則第 18 条に則って、経済状況等を総合的に勘案して判断を行うこととされていることから、平成 27 年度概算要求では、平成 26 年度予算案を同額を要求し、消費税増収分を充てる「社会保障の充実」については、事項要求の取扱いとして予算編成過程で検討する。

(注 2) 金額は厚生労働省における平成 27 年度概算要求額であり、別途、内閣府において保育緊急確保事業（1043 億円）を概算要求している。

1 待機児童解消加速化プランの更なる展開

「待機児童解消加速化プラン」では、平成 25・26 年度の 2 年間で約 20 万人分、平成 29 年度末までに合わせて約 40 万人分の保育の受け皿を確保し、待機児童の解消を目指すこととしており、平成 27 年度概算要求においては、消費税財源も活用しながら以下の事業について概算要求を行う。

民間保育所運営費

458,111 百万円

保育所運営費負担金

民間保育所における保育の実施に必要な運営費について財政支援を行う。（約 154 万人分）

※子ども・子育て支援新制度の施行に伴う「量の拡充」及び「質の改善」に係る所要額については、平成 27 年度における消費税増収分の動向等を踏まえて、予算編成過程で検討。

保育の量拡大を支える保育士の確保

6,055 百万円

子育て支援対策臨時特例交付金

[31,161 百万円]

保育緊急確保事業（内閣府）

2 多様な保育の提供等

病児・病後児保育事業

5,196 百万円

年金特別会計

病児・病後児対応型 述べ 200 万人

体調不良児対応型 898 か所

非施設型（訪問型） 15 か所

休日・夜間保育事業

838 百万円

年金特別会計

休日保育事業 12 万人

夜間保育推進事業 280 か所

一時預かり事業

[9,548 百万円]

保育緊急確保事業（内閣府）

事務局日誌

9 / 16

「仏力」 「仏教保育」 編集会議

こどものくに 「たんぽぽ版」 編集会議

9 / 8

「仏力」 「仏教保育」 編集会議

こどものくに 「たんぽぽ版」 編集会議

「重ね言葉」にご注意!!

「重ね言葉」とは、意味が重複する語を二重に使う言葉を指すのだが、気にもしないで使っている。「話し言葉」は意外に多いようと思う。「連日暑い日が続きますね」「どうも違和感を感じる…」などといった言葉も、話し言葉なら何となく使うし、気にもならない。しかし「書き言葉」にするはどうだろう?「なんかおかしいのかな?」と思う言葉もあるのだが…。

過日、重ね言葉の誤った「書き言葉」の記事を読んだ。「やはりなあ」と思う言葉が書かれていた。目にした方もおられると思うが、おせっかい気分で、そのいくつかを紹介したい。

「決着がつく」=決着とは「決まりが着く」こと。「着く」は重複する。

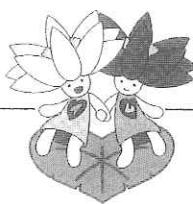
「従来より」=従来は「前から今まで」の意であるから、「より」は不要。

「お体ご自愛」=手紙文の末尾でよく使うが、自愛は「自ら御身を大事にする」ことだから、「お体」は不要。

「第一日目」=第1日、いずれも物の順序を表す語であるから、「のこす」の意味を持つので重なる表現である。
 「留守を守る」=留守は「居残った者が家を守る」という意味を持つので、「留守を預かる」という表現が正しい。

他にも「後で後悔」「過半数を超える」「後遺症が残る」等々、たくさん紹介されていた。思い当たる方もおられることだろう。

公益社団法人 日本佛教保育協会
 〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4
 ホームページ <http://www.butto.com/>
 電話 03(3431)7475・FAX 03(3431)1519
 発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満
 毎月1回1日発行(1部315円)



佛教保育綱領

慈心不殺	生命尊重の保育を行なおう
仏道成就	正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進	よき社会人をつくる保育を行なおう

■秋晴れが映えて良い季節になってきた。10月は運動会のシーズンを迎える。各園でも元気な子どもたちの声が響いていることだろう。地域の小学校でも小学生が組立体操などの練習をしている様子が見て取れる。運動会やその練習の最中にも欠かせないのが演技用や競技BGMなどの、いわゆる「運動会の曲」だ。学校や幼稚園の校庭園庭にあるスピーカーからはヘビーローテーションの曲が流れる。住宅街の中などにある園や学校ではこの音楽が騒音になってしまわないよう実に気を遣うところだ。■最近ニュースで保育所の新設に地域住民が反対運動を起こす話を聞く。その原因のひとつが「子どもたちの声」。またかつてドイツでは「子どもの声騒音訴訟」もおこった。裁判結果は、子どもの声は騒音と認めないことに落ち着いたが、地域住民との上手な折り合いを問題提起している。子育て環境も「配慮」と「対応」がせめぎあう中に位置づけられていく、そういう社会になっていくのだろうか。

(五島)

編集後記

紙芝居 おしゃかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面)○四つの門(13場面)○おさとり(16場面)○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000(8%税込¥21,600)※分売不可

脚本・絵/諸橋精光 画面38.2×26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご活用いただけるよう、おしゃかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子でも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ
すずき出版

鈴木出版株式会社 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21 ☎03-3945-6612(保育営業部) FAX03-3945-6616 <http://www.suzuki-syuppan.co.jp/>